Women
現代の吟子たちに聞く

埼玉県では、男女共同参画の推進に顕著な功績のあった個人や団体、事業所の方々に2005（平成17）年度より「さいたま輝き荻野吟子賞」を贈っています。第8回「さいたま輝き荻野吟子賞」の受賞者・田部井淳子さんのお話を、2月9日に行われた「With You さいたまフェスティバル」での講演会から、一部抜粋してご紹介します。

田部井淳子 TABEI JUNKO（登山家）

東北の復興を担う若い世代を富士登山で応援したい

大切なのは小さなこの一歩

たべい じゅんこ 1939年福島県三春町生まれ。62年、昭和女子大学卒業。69年、「女子だけで海外遠征を」を合言葉に女子登攀クラブを設立。75年、エベレストに女性として世界初の登頂に成功。92年、女性で初の七大陸最高峰登頂者となる。年数回の海外登山など多忙な中、故郷・福島の被災者支援に力を注いでいる。平成24年度、第8回「さいたま輝き荻野吟子賞」受賞。

朝起きてまずすること
毎朝違うが、緑茶、紅茶、ミルクティなど
温かいものを飲む
好きな食べ物
くだもの、水なす
好きな映画
サスペンス映画が好き
『ペリカン文書』はハラハラ、ドキドキした一作
リラックス・タイム
TV映画を見るとき
5年後の私
各国の最高峰を登っていたい

3年ほど前にNHKの番組で内多勝康アナウンサーと2人で北アルプスを縦走したことがありました。富山県の立山から入り、薬師岳、槍ヶ岳を越えて、穂高連峰のジャンダルムまでの60キロを23日かけて歩きました。ジャンダルムに立つと、歩いてきた山並みがはるか向こうに見渡せます。内多アナウンサーは、私たちの一歩はたかだか40～50cmに過ぎないけれど、一歩一歩積み重ねて来た結果、ジャンダルムに立っているんですねと、とても感激されていました。

東日本大震災後、被災した高校生を富士登山に招待するプロジェクトを行っています。家族と離れ他県に移らざるを得なかった生徒、1年の時と2・3年は別の高校に進まざるを得なかった生徒など、多感な時期に受けたさまざまな心の傷が、寄せられた生徒たちのアンケートからうかがい知れました。第1回目は61人の東北の高校生が集まり、地元・富士吉田市の高校生も加わって山頂をめざしました。お父さんの遺品の携帯電話に励まされて歩いた子、見知らぬ目の前の生徒が差し出した手につかまって重い足を踏み出した子…。全員が頂上まで登ることができ、生き生きとした顔で帰ってきました。この体験が東北の復興の力になってくれると信じ、これからもプロジェクトを続けていきたいと思っています。

私は七大陸最高峰に登ったあと、世界各国の最高峰への登頂を続けています。現在までに登ったのは66カ国。今年はニカラグアの最高峰に登り、ヨルダン、クロアチア、東ティモールの最高峰を予定しています。1年のうち約150日を山で過ごせるのは幸せなことです。

限られた時間の中で私たちが残せるものは、毎日の生活の積み重ね、自分自身の歴史です。いずれ死んでいくとき、楽しかった、やるだけやった、生まれてきてよかったと思いたい。もっともっと密度濃く生きて、自分自身の歴史を豊かなものにしたいと思っています。

ブータンの弁当箱「ポンチュウ」。愛用している竹製の入れ物です。おやつを入れて山に持っていきます。